

たかお治久

後援会
会報

No.26

■発行日／平成31年1月 ■編集発行／鷹尾治久後援会 ■後援会連絡所／カネカ労組高砂支部内

新年明けましておめでとうございます。高砂市議会議員の鷹尾治久です。

先ずは、昨年9月2日投開票の高砂市議会議員選挙にて皆様のお蔭をもちまして無事に当選をさせて頂きました事をご報告致します。

また、当選に伴い私が代表を務める会派(明風会)メンバーに以下の変更がありましたことを重ねてご報告させていただきます。

石崎徹議員(2期目)は継続、島津明香議員(2期目)が別会派(新政会)に移り、新たに芝本鎮彰議員(1期目)が加わり、合計3名体制で活動をスタートさせました。



3期目はこれまでの経験を踏まえた上で初心に戻り、更に皆様のお役に立てる様取り組んでいきたいと考えております。

しかし、まだまだ未熟な点も多く、引き続きご指導の上、ご支援を頂きたくよろしくお願い申し上げます。

尚、改選後高砂市議会内で私が担う役割及び所属する委員会は以下の通りです。

明風会メンバー写真



左から芝本議員、私、石崎議員

- 会派(明風会)代表
- 建設環境経済常任委員会[委員長]
- 決算特別委員会[副委員長]

私の思いと決意



平成22年9月に初当選をさせて頂いてから8年が経ちました。1年目より「皆様の心晴れやかな暮らし」や「笑顔あふれる街づくり」を目指し取り組んでいましたが、その思いは全く変わることなく、この8年間でより強く感じる様になったのが、家事や育児を含む「仕事の大切さ」と「地域コミュニティの大切さ」であります。

『仕事』は生活を安定させてくれる手段であると共に、自分を磨き成長をさせてくれる掛け替えのないものです。『地域コミュニティ』は人生100年時代における定年後の生活を見据えた時、人が生涯を「如何に豊かで実りある人生」として生きていけるかを考えると、自分の住む地域に笑顔で話せる仲間を作る事は非常に大切な事だと考えます。

人が生活を営むには、様々な事がバランスよく整っていることが大切であることは言うまでもありませんが、私はその中でも特に「産業発展の支援(仕事)」「地域コミュニティの充実」に重きをおいて、皆様に「心晴れやかな暮らしを実感して頂ける高砂市」を目指し、自分を磨き、精一杯お役に立てるように取り組んでいきたいと考えております。

引き続きご指導、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

1. 2019年度予算編成に対する明風会からの要望&回答

毎年10月から11月頃に次年度以降への予算、政策への反映を望み市長に対し各会派が「会派要望」を提出します。当局はこれらの要望を受け、検討した後にしかるべきタイミングで現段階での回答をくれる仕組みになっています。

そこで今回はその会派要望の内容と回答(抜粋)を以下の通り分野別にご報告させていただきます。

私が目指す 高砂のまち



みんなが心晴れやかな暮らしを実感できる 笑顔あふれるまち

分野	会派要望	継続/新規 状況
安心・安全 (防災)	①治水対策の推進による安全・安心な街の構築	継続
	②地区防災計画の策定支援制度の創設	新規
	③防災活動スキルアップを目的とした人材育成の為に指導的人員(防災士)の地区毎の配置	新規
	④交通安全対策の推進(次ページで詳細説明)	継続
福祉	①公立保育園の保育時間の拡大	継続
	②デマンド交通等公共交通の在り方検討	継続
	③買い物困難者の解消	新規
	④市と社協との連携体制の強化	継続
	⑤三世代同居・近居するための住宅取得・新築工事やリフォーム工事への助成	新規
まちづくり	①『公共施設等総合管理計画』の確実な推進	継続
	②開発許可権限の取得による調整区域を含めたまちづくりの推進	継続
	③JR宝殿駅南駐輪場整備事業	継続
	④山陽電鉄高砂駅周辺整備の確実な推進	継続
	⑤空き家対策を含む既存市街地の再開発事業	継続
	⑥樹木の計画的な管理と快適な公園空間の維持管理	継続
教育・若者支援	①教育環境の充実	継続
	②成人式の充実	継続
	③子ども議会の実施	継続
文化・スポーツ	①文化・スポーツ活動への支援の拡充と施設整備	継続
	②貸館施設の柔軟な対応	継続
産業発展支援	企業誘致の推進	新規
行政運営	①民間専門能力者の市職員への採用	新規
	②能動的情報発信	継続

前ページで掲載させて頂きました会派要望の内、当紙面では交通安全対策について、以下の通りより詳細な要望内容と当局の回答をご報告致します。

交通安全対策 これについては具体的に以下の施策展開を要望しております。

要望1 「高砂市自転車のまちづくり推進条例」の制定

回答

昨年度、自転車推進活用法が施行された。今後、国、県及び市が連携を図り、動向を見ながら、先進地の事例も鑑みて条例の研究をしていく。



要望2

交通版ハザードマップ(ヒヤリハットマップ等)により市内の交通危険箇所の把握と改善、道路改修の進捗状況などの見える化

回答

交通危険箇所に関する各小学校校区の現地確認は平成24年度に全校区で実施し、平成26年度から毎年半数の小学校区分を実施したが、改善要望のある箇所が同じである場合や、物理的な問題で対応できない現場もある。現場状況に変更があれば、随時改善に努めていく。

市内の交通危険箇所の把握と改善、道路改修の進捗状況などの見える化については、他市の事例等を参考にしながら、警察とも協議し、検討していく。

要望3

兵庫県との連携による竜山橋付近、相生橋付近の安全対策実現

回答

相生橋の安全対策においては、県事業で実施しているが、下流側の橋を自転車・歩行者用とし、車と分けることで安全を確保する予定である。また、自転車・歩行者の危険な状況を解消するために、自転車ネットワーク計画を策定しており、県道高砂港線の整備に合わせて市道高砂34号線においても自転車及び歩行者の分離を考えている。特に加古川市から高砂市に向かう西行き車線において朝の通勤時間帯に渋滞が発生しており、早期に渋滞を解消する必要がある。

竜山橋付近の安全対策も引き続き県と協議・検討していく。自転車・歩行者の対応となれば竜山橋付近に90度に橋を架ける必要があり、解決方法については、更に協議を進めたい。

要望4

交通安全対策としての段差のある歩道の解消

回答

新設道路や歩道等のバリアフリー化の際には、現場状況に応じてセミフラット形式またはフラット形式を採用していく。

私の主張

大切な命、大切な家族、みんなが安心して暮せるまちである為に様々な整備が実施されていますが、それでも、高砂市は人口1万人辺りの自転車による事故件数は県下で一番多い自治体というデータがあります。



市内には竜山橋付近、相生橋付近をはじめ、多くの危険箇所があります。私はこれからも危険箇所の改善に拘った主張を続け皆がより安全、安心して生活をおくれるよう、小さな対策も含め交通安全施策を促していきたいと思っています。

2. 平成30年12月議会 一般質問のご報告



質問

現在の高砂市の人口推移は高砂市の人口ビジョンを下回っているが、この現状をどう分析しているのか。人口がビジョンを下回る形で推移している現状に対し、平成31年度の予算編成を控え、今後どの様に回復基調へもっていかうとされているのか？

答弁

人口ビジョンより7年早く人口減少が進んでおり出生率や転出超過者数においても目標とかけ離れている。総合的に市民満足度を向上させる事で人口減少対策としたい。施策選択の6つの観点の内の1つを「人口減少克服に有効か」として予算編成に取り組んでいる。

■その上で、私より以下の通り具体的な提案を2つさせて頂きました。■

提案

1 スマホを活かした安全なまちづくり

街中の危険箇所を発見した場合に自身が所有するスマートフォンで高砂市に一報を入れてもらうシステムを導入してはどうか

答弁

市内の危険箇所を発見した時、スマートフォンアプリを活用した新たな取組については市民の皆様のニーズを把握し、研究を進めていく。

提案

2 諸団体が連携した アイデンティティーの確立と実践奨励

具体的には自動車運転手による「横断歩道での止まって譲る」の組織的実践による高砂市の価値創造

答弁

高砂市交通安全計画の基本理念「人優先」の交通安全思想に基づき、歩行者、高齢者、障がい者、子ども等の交通弱者の安全を全ての交通において確保するということをひとつの「高砂らしさ」としてPRし実践の啓発を行いたい。

私の主張 仕事の形骸化を懸念！



現在の高砂市は、次年度の予算編成方針にもある通り財政的に非常に厳しい状況です。私はこんな時こそ「ピンチはチャンス」と捉えこれまでの仕事のやり方や発想を見直す機会であり、今こそ高砂市関係者が一丸となって高砂をより価値ある自治体にしないといけないと考えています。

今回の一般質問で私はこの考えを「組織目標の再認識と現場への浸透」というテーマで「市の計画書等には立派な事が書かれているが、現場にそれが浸透し、実際に出来ているか？」を出来ていない事例を挙げて問い、チェックの仕組みの充実を求めました。まだまだ満足な回答が得られた訳ではありませんが、少しでも改善が進む様、諦めることなく、様々なことに拘り続け、高砂をより良いまちにしていきたいと考えています。

<鷹尾治久後援会役員>

会長：西本裕行 副会長：北野光昭 松谷敏道 荒田修 松野憲児 幹事：松森翔平 会計：林晃平 監査：和住真宏

日常お困りの市政相談は、お気軽にお電話ください。連絡所／TEL.079-445-2395 (カネカ労働組合高砂支部内)